

森づくりの最前線

塩那森林管理署 那須森林事務所 森林官 佐藤 健治



春の訪れを待つ茶臼岳

私が勤務している那須森林事務所は、栃木県の北東部に位置し、那須塩原市と那須町に所在する国有林約16,800㍍を管理しています。

管内には、日本百名山に数えられる茶臼岳（標高1,915m㍍）を中心とする那須連山があります。中でも茶臼岳は今でも噴煙をあげる荒々しい景観や山頂からの展望が人気で、山頂付近までロープウェイが整備されていることなどから手軽に登山を楽しめることが特徴です。

那須街道のアカマツ林

旧国道4号線から那須高原へつながる那須街道の入口には、約2㍍にわたり1万2千本ほどの天然のアカマツ林がすばらしい景観をつくり出しています。

このアカマツ林は、昭和22年までは旧宮内省帝室林野局所管の御料林でした。戦後の食糧増産が必要な時代には那須地域にあった旧御料林の多くが開墾されましたが、本林は那須街道アカマツ林の美しい風景を守るために開墾されず、その後、国有林として管理されてきました。

林内には、ウッドチップ敷きの遊歩道が整備されており、アカマツはもちろん、ユリ類、ラン類、リンドウ類などの花を楽しみながら歩くことができ、多くの方に森林散策の場としても親しまれています。



那須街道アカマツ林

松くい虫によるアカマツ林の被害対策

この那須街道のアカマツ林は、松くい虫による被害により、近年は毎年300本程度が枯れています。

この場所は準絶滅危惧種に指定されているオオタカをはじめとする猛禽類の姿が見られ、これらの生息の場として重要となっていますが、松くい虫の被害等により、巣を作るのに適したアカマツが減少してきています。

このため、春には地上からの薬剤散布や、冬には被害を受けたアカマツの伐採処理によりマツクイ虫の駆除を行うとともに、特に、営巣木周辺のアカマツには発病を防ぐ薬剤を樹幹に注入するなど、被害対策に取り組んでいます。

この様に、アカマツ林の保護に取り組んでいますが、被害を完全に食い止めることは非常に難しいと感じています。

この様な中、アカマツの植栽や保育作業などの、次代を担うアカマツの保護活動を地元ボランティア等多くの方々の協力を得て行っています。

今後とも、パトロールを強化し、被害の把握や調査等に力を注ぐとともに、多くの方の協力を得ながら、このすばらしいアカマツ林を後世に残せるよう、取り組んでいきたいと思ひます。



アカマツの樹幹に薬剤を注入



アカマツの植栽に参加した子どもたち